



Seven Generations

2017（平成29）年度 活動報告書

2018年2月

特定非営利活動法人
セブン・ジェネレーションズ



セブン・ジェネレーションズ（SG）とは？

Mission

わたしたちは持続可能で公正な未来を実現するために、目覚め続ける世界市民のコミュニティを育みます。

Value

1.人

この活動に参加するすべての人を尊重します。そして参加しないすべての人も尊重します。目指すビジョンを実現するのは人。かけがえのない人と人がここに集い、この活動がはじまりました。

2.つながり

すべての存在とのつながりを感じます。自分につながるすべての人。生きとし生けるもの。身の回りにある道具。自分が食する食べ物。そして地球。すべてのものとのつながりに思いを馳せます。

3.対話

心を開いて対話することを実践します。お互いの心の中にある声に耳を傾け、お互いの人そのものに興味を持って言葉を紡ぎ合います。

4.プロセス

プロセスを大切に扱います。今、そこに葛藤があったとしても、プロセスを丁寧に踏むことで未来への智慧が見つかります。そしてその智慧の中から結果が自ら姿を現すことを信じます。

5.オープン

この活動の場はすべてオープンなスペースです。つまりこの場への出入りは自由であり、安心してそれぞれの想いに沿って活動・発言ができる自由があります。そして、この場にある智慧、情報、出来事は場の外に向けても開かれています。

6.問い

常に問いを持ち続けます。言葉を手にした瞬間から「思い込み」がはじまります。さらに問いを持ち、言葉を更新し続けること。言葉にならないものに問いかけ、言葉にしていこうことに挑戦します。

7.体現

わたしたちは、わたしたちの願いを体現する集まりです。外に求めるだけでなく、謙虚に自分達のビジョンを自分達で示すことを意図して活動します。



目次

1. チェンジ・ザ・ドリーム シンポジウム開催	・ ・ ・ 3 ページ
2. ファシリテーター・トレーニング	・ ・ ・ 4 ページ
3. ゲームチェンジャー・インテンシブ（GCI）日本語版 開始！！	・ ・ ・ 5 ページ
4. 映画「アチュアルの夢」映像制作プロジェクト	・ ・ ・ 6 ページ
5. 中期的ビジョン『SG2020』の策定	・ ・ ・ 7 ページ
6. パチャママ・アライアンスとの定期コール	・ ・ ・ 8 ページ
7. 主催および協力しているその他のイベント	・ ・ ・ 9 ページ
8. コミュニティ内部での活動	・ ・ ・ 12 ページ
9. 会員、その他の動向	・ ・ ・ 13 ページ
10. ご寄付について	・ ・ ・ 18 ページ
11. 最後に	・ ・ ・ 19 ページ



1. チェンジ・ザ・ドリーム シンポジウム開催

2017年は、1月14日から12月22日まで、チェンジ・ザ・ドリーム シンポジウム（以下チェンドリ）が全国各地で開催され、参加人数は200名、合計が4145人となりました。今期は、昨年に引き続き、Web会議システムZoomを使ったオンラインチェンドリを開催するファシリテーターが増えたほか、様々な工夫を凝らしたチェンドリが開催されました。

歌とのコラボ企画である「歌チェンドリ」は9月に行われたイベント“Calling【天職】”の中で発表されました。ギターを奏でながら、船に乗って旅に出るという想定で、チェンドリの世界観を歌に乗せて届けました。ヨガとのコラボ企画である「ヨガチェンドリ」は、ヨガティーチャーでもあるファシリテーターが、ヨガのクラスとコラボして届けました。お母さんにターゲットを絞った「ママチェンドリ(ママたちの未来サミット)」は5週に渡ってオンラインで集いながら、動画を元に問いを深めていきました。

東証一部上場の大手企業で26名の方を対象にチェンドリが開催されました。今どこにいるのか、どうやってここまで来たのか、のパートのビデオを見て感想をシェアした後、会社の事業を通して何ができるのか、自分はどう貢献できるのか、を話し合うという流れで進められました。企業へのチェンドリ提供の事例として、今後の展開の試金石となりました。

これらの実績は、チェンドリというプログラムの目的「地球上のすべての人が環境的に持続可能で、社会的に公正で、精神的にも充足した生き方を実現すること」のために、ファシリテーターが創意工夫を凝らした結果だと考えています。新たなアイデアやご要望のある方は、ぜひお知らせください。 <http://www.sevengenerations.or.jp/symposium>





2. ファシリテーター・トレーニング

2017年度のファシリテーター・トレーニングは東京3回、関西1回の全4回開催し、14名のファシリテーターの仲間が誕生しました。

今年度も多種多様な仲間を迎え入れ、これにより日本で生まれたファシリテーターは252名となりました。

2018年度は長年続けてきたファシリテーター・トレーニングを一旦終了し、新しいトレーニングプログラムとファシリテーターのための新しいサポートシステムを開発する予定です。今後も世界を変えていく仲間の誕生と活躍にご期待ください。



第26回 チーム「笑菩薩」 3名

日程：3月4、5日～4月1日

場所：銀座オフィス（東京都中央区）
西田恭子(おきょう)、上村光典(光ちゃん)
久保元城(もとき)



第27回 チーム「AQA（アクア）」 5名

日程：3月11、12日～4月16日

場所：しみん基金KOBÉ（兵庫県神戸市）
安田恵（めぐ）、神谷亜季菜（Akina）
Haru Irie（ハルさん）、中塚洋子（風 かおる）
佐藤文美（ふみみん）



第28回 チーム「Calling」 4名

日程：7月29、30日～9月3日

場所：銀座オフィス（東京都中央区）
宮田恵（めぐみ）、矢尾和也（やおっち）
木越省吾（しょごちゃん）、石黒圭（けい）
※再参加：川崎倫（リン）



第29回 チーム「1度」 2名

日程：11月18、19日～12月23日

場所：下馬区民会館&宮坂区民センター（東京都世田谷区）
岩崎仁志（いわしくん）、柴田寛文（しばっち）
※再参加：磨井敦子（あっちゃん）、鈴木繭子（まゆちゃん）



3. ゲームチェンジャー・インテンシブ（GCI）日本語版 開始！！

昨年のアニュアルレポートでも報告しましたが、パチャママ・アライアンスの提供しているオンラインプログラムである「ゲームチェンジャー・インテンシブ」の翻訳が行われ、日本語でもこの素晴らしいプログラムを提供できるようになりました。

GCIはチェンドリに参加して目覚めた人たちが、自分たちが望む世界を創っていくための具体的な行動力を身につけ、さらに、世界中の仲間たちと繋がる場をもつことを目的としたプログラムです。1・4・6・8月期と4コース走らせましたが並大抵の労力ではありませんでした。この現代社会の仕組みの中で、一般的なトップダウンの意思決定ではなく、先住民が大切にしているようなコンセンサス重視の運営をすること。それぞれの内から湧き出るエネルギーを大切にし、真実の思いを共有しながら関係性をつくっていくこと。このプログラム運営に関わることで金銭的にも精神的にも報酬を得ることができること。そんな大きなチャレンジの中では、対立や葛藤に直面することも多く、それでも従来のやり方ではないコミュニティのあり方を体現したいという参画メンバーの強い意志のもと、なんとか1年やり通すことができました。

結果として延118名の参加者、49名のモデレーターの計167名がこの場を経験し、その後も一つのコミュニティとして新しい動きをつくりだしています。1年間通して実施してみているのは、これは今の時代に最も必要なプログラムの一つであるということ。この運営をきっかけに新しい社会をつくっていききたいという志ある個人や団体とつながることができ、より大きなムーブメントの可能性を感じることでできる素晴らしい機会となりました。2018年度もさらに多くの方々に提供していく計画を進めています。

まだ未経験の方、ぜひご参加ください。<http://www.sevengenerations.or.jp/gci>

NPO法人セブン・ジェネレーションズ

ホーム プレスリリース 活動内容 プロジェクト ミッション 活動概要 沿革 お問い合わせ

社会の仕組みに変化をつくるオンライン講座

ゲームチェンジャー・インテンシブ
Game Changer Intensive

ナビゲーション

ホーム

1 モデレーターの広場（非公開ページ）

01.お知らせ

10/2 くらしと政治・場あ〜書店！【10月（金）】

8/24 キックオフ動画等追加しました

9/5 スモールグループ映像アップされました

9/7 オンライン赤燈『じーしー』開店のお知らせ

02.寄付案内

10.オリエンテーション

参加者プロフィール

私たちのつくりたい場／グランドルール

ホーム

ゲームチェンジャー・インテンシブへ、ようこそ！

このプログラムは、チェンジ・ザ・ドリームシンポジウムに参加して世界の現状に目覚めた人たちが、自分たちが望む世界を創っていく一員として具体的な行動を起こしていくための力をづけ、さらには世界中にいる志を同じくする仲間たちとつながる場を持ち、コミュニティを創っていくことを目的としています。

GCI ゲームチェンジャー・インテンシブ トレイラー



4. 映画「アチュアルの夢」制作プロジェクト & 自主上映会の開催

豊かな生命を育む熱帯雨林の奥深くで、大自然と共存する伝統的な暮らしを続けている先住民族「アチュアル族」。夢にもとづく文化を持つ彼らは、1995年に現代社会へ向けて警鐘を發しました。それは、世界的活動家リン・ツイストによるパチャママ・アライアンスの創設と、環境的に持続可能で、社会的に公正で、精神的にも充足した世界を実現する地球規模の活動「チェンジ・ザ・ドリーム シンポジウム」、そして日本でのNPO法人セブン・ジェネレーションズの設立へとつながりました。

2016年10月、起源であるアマゾンの秘境を現代社会に生きる日本人が訪れました。

アチュアル族の精神文化、私たち日本人がそこで受け取るメッセージをより多くの方へお届けするために、龍村ゆかり監督にお願いし旅の映像作品化に取り組みました。

映像化に際して、2016年9月から「アチュアルの夢」映像への特典付きの寄付を募集し始め、2017年1月31日の寄付締切りまでに3,148,692円を321名もの方々からいただきました。



DVDブックレットの制作は現在進行中です。

また、映画「アチュアルの夢」は、誰でも気軽に広めていくことができるよう、自主上映会の仕組みを整えました。

この仕組みを導入したことにより、2017年6月4日に名古屋の星ヶ丘テラスのみつばちマルシェのプログラムとして自主上映会を開催した他、大阪・東京などで有志メンバーによる自主上映会が続々と行われています。

2018年度はDVDブックレットの完成披露試写会（予定）のほか、引き続きどなたでも自主上映会が開催できますので、ぜひこの活動を広める仲間になっていただければ幸いです。

<http://www.sevengenerations.or.jp/achuar-events>





5. 中期的ビジョン『SG2020』の策定

SG2020

<SGのビジョン>

環境的に持続可能で、社会的に公正で、精神的に充足した生き方をするプロアクティビストたちと新しい社会を創っていく

プロアクティビストとは、

空間・時間を超えた生命のつながりの感覚を持ち、信念をもって行動を起こし、社会にインパクトを与えている人

<2020年までの目的>

1. プロアクティビストを育み、生かし合うコミュニティ・スペースを創っている。（生まれだす場・器）
2. 新しい社会への道しるべを明確に示し、お金と人が集まり、ムーブメントが起きている。
3. プロアクティビストをめざす個人・企業から最も信頼される組織になる。

<2020年までの目標>

1. プロアクティビストが1000人宣言されている。
- 2-1. 行動計画（共有戦略）が作成され、広報される。
- 2-2. 人：ムーブメントに1万人以上が関わっている。
- 2-3. お金：年間の寄付が1億円集まっている。
3. サーベイをする。（毎年アンケートして、楽しみ、学ぶ）

2020年の時点で、セブン・ジェネレーションズがどのようにありたいかを示した『SG2020』を策定しました。

プロアクティビストという表現を用いてビジョンを創りました。また、目標の数値も設定しました。

GCIの日本語版の導入を受けて、GCI参加者を中心にプロアクティビストと宣言される人が1000人いて、SGが呼びかける活動に1万が参加し、寄付が1億円集まるというものです。寄付金額は、常駐のスタッフが複数在籍し、様々なイベントを立案し、広報活動を行うのに必要な経費のざっくりした概算です。また、「最も信頼される組織になっている」かどうかは、継続的なサーベイで確認することを考えました。

SG2020の策定にあわせ、理事の名刺は刷新し、裏面に新しいビジョンを記載しています。（下の写真）

今回、立案はしたものの知ってもらうための活動は不十分で、2018年以降に必要ながあれば改めて刷新した上で、知って頂けるようにしていきます。

vision

環境的に持続可能で、社会的に公正で、精神的に充足した生き方をするプロアクティビストたちと新しい社会を創っていく

プロアクティビストとは・・・

空間・時間を超えた生命のつながりの感覚を持ち、信念をもって行動を起こし、社会にインパクトを与えている人



事業内容

チェンジ・ザ・ドリーム シンポジウムの開催

ファミリータートレーニングの実施

ゲームチェンジャー・インテンシブの運営

映画「アチュアルの夢」自主上映会の開催

NPO 法人セブン・ジェネレーションズはアメリカのパチャママ・アライアンスと提携パートナーシップを築いています。



6. パチャママ・アライアンスとの定期コール

セブン・ジェネレーションズの起源であるチェンドリを生み出したパチャママ・アライアンスとの月1回の定期コールがトレーニングリーダーの佐藤扶由夫（ふゆふゆ）のホストによって持たれました（除く4月）。

時差の関係もあり平日の午前という参加しにくい設定ではありますが、1年間でのべ81名の参加を頂きました。基本的にはパチャママ・アライアンスの国際リレーション担当のマイサとセブン・ジェネレーションズ関係のコアメンバーですが、今年はそこに加えて、特に初めて参加された方や久々に参加された方も毎回入れ替わりで参加され、フレッシュな風も感じられるコールとなりました。また、アメリカ在住の杉原めぐみ（めぐ姐）が毎回ボランティアに通訳の役割をとって下さっていて、日本語から英語は同時チャットで書き、英語から日本語は口頭で逐次通訳をして下さっているというスーパー通訳ぶりを発揮してくれていなければ、このコールは成り立っていないと言っても過言ではありません。またトピックが事務的なことからチェンジエージェントとしてのあり方まで、広さと深さがあることもこのコールの特徴です。

このコールのホストからは「そのようなディスカッションを必ずしも十分にまとめきれていないところもあり、忸怩たる気持ちもありますが、参加メンバーの皆さんの主体的なあり方に助けられて進んでいます。正に Together we are genius. を体現しているコールとも言えるでしょう」とのコメントを頂いています。今後も冷やかし、チラ見、その他大歓迎ですので、ちょっとでも興味を持った方は一度出てみて下さい。また、一緒にコールのホストをしてみたいという方いたら、遠慮なくご一報下さい。2018年もこのコミュニティの方と一緒に創っていければ幸いです。





7. 主催および協力しているその他のイベント

ゲームチェンジャーとしてのあり方を深める一日

日程：10月28日@しみん基金KOBE（兵庫県神戸市）

G C I の日本語化を受けて、新プログラムを神戸で初開催しました。ファシリテーターをトレーニングリーダーの3人が勤め、8名の方にご参加いただきました。チェンドリの4つの問いを進行の指針として使いながら、G C I のコンテンツ「ゲームチェンジャー10の資質」、「スピリチュアルリーダーシップ12の原則」を交え、現代社会の「八百長ゲーム」を変革するためのゲームチェンジャーとしての個人のあり方を深め、個人の取る役割とアクションを明確にするためのプログラムです。2018年度もより深化した形で展開していく予定です。



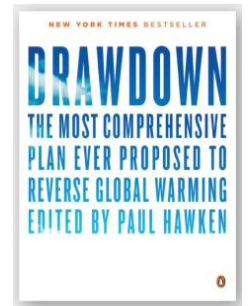
温暖化逆転プロジェクト Project Drawdown (ドローダウン)

G C I のモジュール「ゲームを変えるムーブメント：気候変動」の中で、ポール・ホーケンのプロジェクト・ドローダウン（以下「D D」）が紹介されました。D Dは、気候変動の対策に有効な対応策を100のリストにし、期待される効果順にランキングした「世界で初めての包括的な地球温暖化逆転プロジェクト」です。パチャママ・アライアンス（以下「P A」）は世界に先駆けてこのD Dを紹介した団体となり、セブン・ジェネレーションズもD Dを日本に紹介した最初の団体になりました。現在P Aではチェンドリ、G C I に続き、このD Dを用いて気候変動の問題にアクションを起こすためのプログラム（通称P A D D）を開発中です。この開発チームに賛同会員の杉原めぐみ（めぐ姐）と、正会員の関口守（マモ）が参加しました。ポール・ホーケンとも有効な連携を取っているP Aが開発するP A D Dは、環境アクティビズムと「新しい物語」を生きるあり方を満たすことのできるようなプログラムになる予定です。G C I とは違い、実際に対面型で提供されるプログラムとして、ローカルな取り組みを後押ししてくれるような内容だけに、新たな展開が期待されています。2017年11月3日には、杉原めぐみ（めぐ姐）が日本で初となる「P A D D 紹介イベント」を品川区大崎で提供しました。今後、P A D Dの開発に伴ってこのドローダウンも日本に紹介していこうという熱が高まっています。



「地球温暖化にどのように取り組むか」

（ドローダウンプログラムの映像より）





7. 主催および協力しているその他のイベント

しあわせの経済世界フォーラム2017開催

2017年11月11・12日と辻 信一さんの呼びかけのもと、東京で行われた「しあわせの経済」世界フォーラム2017に参加・登壇しました。当日は分科会・ワークショップだけではなく、販売ブースにもたくさんの方にお越しいただきました。

1日目はヘレナ・ノーバーク＝ホッジ（ローカル・フューチャーズ代表）、サティシュ・クマール（平和のための巡礼者、イギリス）、ジョージ・ファーガソン（建築家、元ブリストル市長、イギリス）などを始め多くの方が登壇されました。

2日目には分科会「Re:thinking もういちど教育について考えよう」、「スピリチュアリティとしあわせ学」を主催しました。また、翌13日にはこのフォーラムのためにブータンから来日したネテン・ザンモ、ツェリン・ドルジとともに理事の鳥谷部愛が武蔵野大学しあわせ研究所主催の「ブータンの賢者に学ぶ幸せの実践学」に登壇しました。

「Re:thinking もういちど教育について考えよう」

乾いた土地のインドで緑に囲まれたブーミーカレッジを19年前に設立し、多様な木々や蝶、食べ物に触れることで子どもたちの感性をひらいてきたシータ。そしてオーストラリアでホリスティックな教育を調査研究し、子どもが自ら育つ大人の関わり方を伝えて来たジェーン。アマゾンやそのほかの先住民の知恵からこれからの時代、ワシとコンドルが共に飛ぶという世界のビジョンを掲げた鳥谷部愛とで、60人近くもの方々が参加し、特別ワークショップを開催いたしました。私たちが受けて来た教育、そしてこれからの教育についてみんなで一緒に考えた1時間半となりました。

「スピリチュアリティとしあわせ学」

プラシャントの瞑想にはじまり、慶応大学・前野隆司教授の素晴らしい研究の賜物である長続きしないしあわせ、長続きするしあわせの話、そしてしあわせになるための4つの因子（やってみよう！ありがとう！なんとかなる！ありのままに！）と、それを体感するワーク、そしてプラシャント、ネテン、鳥谷部愛から語られる世界にある痛みとどう向き合い、ローカルなしあわせを広げていくのか、会場のみなさんとのダイアログ・・・すべてがつながって、私たち一人ひとりからしあわせは広がっていく、と勇気づけられる場になりました。これからもしあわせの探求、真実を探し続ける人生の旅は続きます。





7. 主催および協力しているその他のイベント

山川紘矢さん・山川亜希子さんの講演会【Calling（天職）】で自団体を紹介

2017年9月17日、台風前の雨模様の中、翻訳家の山川紘矢さん・山川亜希子さんの講演会【Calling（天職）】に併せて午前中に行われた「9.17 Calling(天職)への道～天職にであうワークショップ祭り」にて、セブン・ジェネレーションズの活動紹介とワークショップの提供を行いました。午前の部約50名参加、午後の講演会約150名参加と、実に多くの方にご来場いただきました。

午前中は育自の魔法ワークショップ、本当の仕事ワークショップとの共演でした。セブン・ジェネレーションズからは、理事の鳥谷部愛をはじめ、トレーニングリーダーの桑原康平（サウル）、そして偶然にも今回の講演のテーマと同じ名前を命名した新ファシリテーター・トレーニングチーム「Calling」によって、チェンドリ、ファシリテーター・トレーニング、GCI、映画「アチュアルの夢」、アクティブ・ホープのワークの提供と紹介を行いました。

また、午前中のオープニングとエンディングではファシリテーターでもあり、ムーブメント・メディスンを日本で広めている宮田恵（めぐみ）によるネイティブアメリカンの太鼓の演奏の他、受付、物販、チラシ配布、会場に来てくれた多くのファシリテーターのみなさんも盛り上げてくれました。





8. コミュニティ内部での活動

Mail News 新月通信

チェンドリに関連する情報を、シンポジウムに参加くださった方々、チェンドリに関心をお持ちの方々にお伝えするため、毎月新月の日に配信し続けてきたメールニュース「新月通信」。おかげさまで2017年7月に100号の節目を迎えました。このニュースを定期購読してくださっている読者も、いまでは1,600人を超えています。“チェンドリ”情報はもちろん、ファシリテーターたちの「チェンジ！」へのホットな挑戦ストーリーもお伝えしています。この機会にぜひ購読登録（無料）をよろしくお願いいたします。

※ 登録は“チェンドリ”HPトップの右下「Mail news」からお願いいたします。<http://changethedream.jp/index.html>

Mail news

メールニュース「新月通信」の配信はこちらから、メールアドレスを入力してお申し込みください。

登録

[バックナンバーはこちら](#)
Powered by AccessMail

セブン・ジェネレーションズ研究所研究報告（報告者：桑原康平（サウル） 研究員）

2016年度末に研究所をセブン・ジェネレーションズ内に立ち上げ、2017年度が実質活動初年度となりました。本年度の研究及び活動内容は、主にセブン・ジェネレーションズコミュニティメンバー、チェンドリファシリテーターが活動する現地を訪れ、実地観察および活動内容のインタビューを行いました。11都府県24市町村特別区を訪問（実際の訪問地は神奈川県相模原市、高知県高知市&津野町、宮城県仙台市&川崎町、東京都世田谷区&墨田区&中央区&文京区&千代田区&港区、栃木県那須塩原市、山梨県上野原市&韮崎市、三重県鈴鹿市、沖縄県石垣島、福島県郡山市&川内村&双葉町&大熊町&飯舘村&田村市、大阪市大阪府、兵庫県神戸市）しました。現地にて10名のインタビューと活動調査を実施し、5名分の映像インタビューを残しました。その他、22名のインタビューも行いました。また、生活の実態を撮影したショートムービー2本（各約10分ずつ）を制作も行いました。本年度の活動および研究の結果、それぞれのメンバーが全国にて多様な活動をその地に根付きながら、複数のコミュニティや団体と協同して活動している実態が見えています。ただし数日の訪問とインタビューでは実際の活動の成果、課題までは明確にはならず、継続して数年単位の現地での調査観察が必要だと思われます。今回研究を始めてみてもっとも有効だったと思われる調査研究方法は、現地での観察と撮影です。一方であまり効果的でないと思われたのはインタビューおよびインタビューのための撮影でした。インタビュー手法そのものの改善も必要で、来年度以降も引き続き現地を訪れ、現状を知ることが優先的な取り組みと考えます。来年度以降継続するに当たって、映像を取らせてくれるメンバーを募集し、あるいは呼びかけをしたいと考えています。本年度は研究活動費として約50万円を支出し、支援者による寄附と研究員の自己負担によって研究活動の継続をしています。来年度以降の継続に当たっては研究費も課題になっています。



9. 会員、その他の動向

「プラネタリー」日本語版の上映会



元代表理事の塚田康盛（つかちゃん）が、「We are Planetary（惑星として目覚める）Reconnect something bigger（より大きなものへ再びつながる）」映画を齊藤由香さんの翻訳字幕をつけて、東京及び全国で約50回の上映会を開催しました。上映会後の対話会では、ジョアンナ・メイシーの「つながりを取り戻すワーク」のオープンセンテンスを用いて、地球の愛を感じ、そして日常生活でそれを受肉させることができました。「We're of this earth, we're not on



the earth. We're of the earth.（私たちは地球の上にいるのではなく、私たちが地球の一部なのです。）」という映画のメッセージは、参加者一人ひとりの心に深く刻まれました。上映会は参加費無しで開催され、席上の寄付で上映会と上映会が支えあう参加費方式がとられ、ご寄付から映画の制作者側へも支援を届けることができました。

国連の「持続可能な開発目標 SDGs」を体験するゲーム



『2030 SDGs』とは、一般社団法人イマココラボが開発した「国連の持続可能な開発目標」について体感的に知ることのできるシミュレーションゲームです。なぜ、SDGsのようなゴールに世界規模で取り組む必要があるのか？を体感的に知ることができるこのゲームは、チェンドリの伝える「現代社会の夢」から目覚めて新しい物語を生きることの大切さを考える上でも有効なプログラムです。

2016年後半に始まったSDGsゲームファシリテーター養成プログラムには、SGコミュニティからも7名ほどの仲間が参加、各地でゲーム提供の機会が持たれています。SGの目指す世界観とも親和性が高く、私たちの目指す世界観を分かち合うための入り口としてもとても効果的です。私たちのコミュニティメンバーの中からも、学校の授業や企業研修などに提供する活動が活発化しています。



9. 会員、その他の動向

福島ラーニング・ジャーニー

10月7日～9日、参加者15名、運営スタッフ9名の総勢24名が震災後7年目になる福島を訪れました。福島の今を見て聞いてそこで感じることを大切に、自分の生き方に活かす旅。3年目です。この春から帰還のはじまった地域やまだ帰還の目処がたっていない地域を訪れ、各地で地道に活動が続けている方々のお話を伺い、参加者それぞれの人生に様々なインパクトを与える意義深い旅となりました。

アクティブ・ホープ

チェンドリとつながりの深いジョアンナ・メイシーのアクティブ・ホープ（つながりを取り戻すワーク）、昨年度アメリカでジョアンナ・メイシーの元で学んできた方々など、各地でワークショップが多く開催され、榎本英剛（ヒデ）による中国での開催も含めると25回、200人以上の方々がこのワークを体験されました。また書籍「アクティブ・ホープ」も初版が完売。第2版も増版されました。

東アジア地球市民村

5月27日～29日まで、神奈川県藤野で東アジア地球市民村が開催されました。藤野という土地柄もあってか、SGコミュニティの仲間からも実行委員や参加者として約10名が参加しました。中国の人も、韓国の人も、台湾の人も、日本の人も自然環境を大切にしながら自然とともに生きる。本質的な変化や進化を望む人たちと過ごす3日間。参加者が互いにプログラムを提供する中、ファシリテーターの関口守（マモ）と、俵山美絵（みえ）の2名もチェンドリを提供しました！（みえは、なんとこの時がファシリデビューでもありました！）通訳の問題などもあり、運営方法をかなり工夫して1.5時間分に圧縮して提供しました。参加者は中国人、日本人、韓国人と、人数はそれぞれ2～3人ずつではありましたが、多国籍ならではの多様な見方と国籍を問わない共通の願いなども表現されて、とても感動的な場となりました。チェンドリはやはり地球人のためのプログラムであることを実感するひと時でした。主催してくれた仲間の加藤大吾さん、中西実和（みわにゃん）、よしざわひとみさん他の皆さんにも大感謝です。





9. 会員、その他の動向

いとしろカレッジ



岐阜県郡上市の石徹白地区にて、連続講座「いとしろカレッジ」を地元NPOとともにチェンドリファシリテーターの斉藤（加藤）万里子（まりっぺ）が主宰しています。

二年目となる2期は東京・静岡・愛知から20代から70代の受講生が参加し、土地の自然や人々と触れ合いながら、自分自身と向き合う中で、卒業時にはかけがえのない仲間となり、各々が望む未来へと歩み出しました。石徹白への移住を決めた受講生も！



主宰者からは「私も土地に根ざした暮らしを続けていきたいです」との言葉も頂いています。2018年度3期も準備中です。

高知での活動

2017年の1年間で、高知で未来につながる新しい社会をつくるべく様々なイベントを高知在住のチェンドリファシリテーター川崎倫（リン）が開催してきました。コミュニティメンバーの桑原康平（サウル）、川口信光（のぶう）と共にアクティブ・ホープ「つながりを取り戻すワーク」、アズワン鈴鹿コミュニティの紹介体験報告会、「本当の仕事」ワークショップの開催。塚田康盛（つかちゃん）と映画「プラネタリー」上映会、10日間にわたるキャラバンイベントでは、赤塚丈彦（Take）、関口守（マモ）と映画「New Story」上映・対話会、SDGsゲーム、「聖なる経済」対話会、ジョン・ミルトンのプログラムを開催しました。宇佐見博志とはチェンドリやアズワン鈴鹿コミュニティの紹介、「自らの価値に気づくワークショップ」を開催。高知の皆さんにも、伝えたい、知ってもらいたいという思いから、著書『アクティブ・ホープ』とジョアンナ・メイシーのプチ紹介会も開催しました。チェンドリファシリテーターも1名仲間が増え、その人らしいチェンドリが生まれています。

GCIには、高知から4名の新しい仲間が参加し、よりよい世界を共に創っていくつながりの輪が高知に広がりを見せていることを実感します。2018年の川崎倫（リン）自身は、コアな情熱であり、今の自分の世界観を創ってくれた「ヘンゼの森 山の分校」と周辺地域にフィールドを移し、より具体的に日々の暮らしにより密接に、かつ地に根ざした活動をしていくとのこと。高知に居ながら、世界とつながりつつ、次世代に大切なものをひきついでいきたいと思っています」と語っています。





6. 会員、その他の動向

平和の海国際ピースキャンプin石垣島

俵山美絵（みえ）と桑原康平（サウル）が8月16 - 20日にPeace for the sea平和の海国際ピースキャンプin石垣島を開催しました。東アジアの武力によらない平和の三角地帯を夢見て、韓国・沖縄・台湾を中心に様々な国と地域から40名余りが参加し、地元石垣からは総勢30名ほどがスタッフとして関わりました。石垣島の大自然と今直面している問題、また各参加者の地域の問題を共有し、対話を通して友好と理解を深めました。

5日間の期間中に参加者がお互いを存分に知り合えるよう対話の時間を設け、ウィル・キーピンの「スピリチュアルリーダーシップ12の原則」と非暴力（共感的）コミュニケーション（NVC）のワークを取り入れました。二日目には、済州島にある海軍基地への反対活動、世界の武器輸出に関する報告、台湾の反核運動やリゾート開発反対運動、沖縄辺野古・高江の運動、与那国の陸自レーダー基地建設によってどれだけ島が様変わりしたか、宮古島における命の水を守るための陸自ミサイル基地建設反対運動など多岐に渡るトピックがシンポジウムで報告されました。この中で桑原康平（サウル）からセブン・ジェネレーションズの活動について紹介しました。また、星空観望や島内戦績巡り、名蔵アンパル散策、カヤックのアクティビティーを通して、石垣島の戦争を学び、自然豊かなこの島を十分に体験できる構成にしました。すべての時間が素晴らしく、参加者同士の結びつきがとても強くなったと実感しています。クライマックスは、三日目の夜に行った島民との交流会です。防衛省が発表している陸自ミサイル基地配備候補地の於茂登地区の公民館を会場に、候補4地区（於茂登、開南、川原、嵩田）の住民の皆さんや陸自ミサイル基地配備反対運動に関わる人たちに参加してもらい、キャンプ参加者との交流会を実施しました。交流会の中では、この基地配備計画がいかに危険かの報告や、基地建設反対の市民連絡会からの活動報告もあり、キャンプ参加者からは言語ごとに分かれ地元の人たちへの応援を歌や踊りのパフォーマンスで披露し、石垣の人たちを勇気づけました。この候補4地区の住民の多くは、沖縄本島で米軍に土地を強制摂取され、新たな農地を求めて石垣島に移住してきた人々で、原野を開墾してパイナップルやマンゴー、野菜を育ててきた人々です。その孫の世代が農業を継ごうとしているときに、突然基地配備計画がやってきたのです。島外からのキャンプ参加者が、地元の住民の基地反対への想いを応援したあの時間は、今後どんな苦難が待っているか不安でいっぱいの人たちを励まし、勇気づけてくれたことでしょう。そして、文化も言語も異なる人々が一つの空間で、お互いのことを思いやり、同じ時を過ごす。まさしく、国と国では成しえない、人と人とで作り上げる東アジアの平和の実現だと感じました。

最終日、石垣市新栄公園にある平和の鐘の前で宣言文を読み上げ、市内をピースウォークして、東アジアの平和を訴えました。イベント終了時には、参加者が笑顔と涙で別れを惜しみ、次回第5回済州島での再会を約束し、今後の連帯と、それぞれの地での平和の活動を固く決意しました。





9. 会員、その他の動向

ガイアエデュケーション

ガイアエデュケーション（GE）は、それぞれの地域や社会の中で個性豊かなコミュニティを実現できる人材育成プログラムです。先進国・途上国をふくめて45カ国約100会場で開催され、世界各地で多くの人材を輩出しながら、持続可能な社会づくりの推進と、それに必要なカリキュラムを作り上げてきました。日本での取り組みは、1998年エコビレッジデザインエデュケーション（EDE）として取り組まれ、2017年からは新たに「ガイアエデュケーション」としてブラッシュアップされたプログラムで、1期生16名が誕生しました。

内容は、持続可能な社会づくりの最重要課題である、何でも話し合えるベースづくり＝”持続可能な人間関係”について6ヶ月間に渡って取り組みます。日本を代表するエコビレッジ3会場

（アズワン鈴鹿コミュニティ、安曇野シャロムヒュッテ、トランジションタウン藤野）で、コミュニティづくりの経験や、トランジションタウンの活動、パーマカルチャー、自然農、NVCなどを学びます。さらに持続可能な社会づくりのベースとなる世界観を、日本を代表する講師陣の人間味あふれる姿から直接学びとる機会もあります。セブン・ジェネレーションズ代表理事である宇佐見博志も講師の一人として登壇しました。受講生の中にはチェンドリやGCI経験者もあり、セブン・ジェネレーションズの目指す世界観やビジョンなど密接な繋がりを感じています。GEでは徹底して自分を探求し、未来に向け自分が何をしていくのかを明確にし、仲間との繋がりを深めていきます。

2018年4月からは2期が開催されます。今後も、同じ世界観を共有する活動として、協働したいと考えています。



雫石での地域おこし



(株) コミュニティライフ
しずくし
COMMUNITY LIFE SHIZUKISHI

岩手県雫石町で行われている町有地を活用した生涯活躍のまち構想（日本版CCRC）。この構想実現や町の課題解決のために行政と民間が連携し町づくり会社を設立しました。去年7月から賛同会員の外岡卓之（トノ）が、地域おこし協力隊として町づくり会社をサポートしています。自然との調和、次世代につないでいける持続可能な生き方、暮らし方への取り組み。これを成功させることで町内外にポジティブな影響を与えることを目指しています。



10. ご寄付について



2017年度は当団体に2,304,261円のご寄付をいただきました。内訳としまして、2016年度に引き続き映画「アチュアルの夢」の映像化に向けて1,588,389円ものご寄付をいただいたほか、GCIの運営に231,300円、チェンドのver3.0へ33,000円のご寄付や、その他イベントにて451,572円のご寄付をいただきました。誠にありがとうございました。

私たちがパチャママ（ケチュア語で母なる大地）から贈られた様々な知恵、自然の美しさ、物語などを、現代社会にあるテクノロジーを利用して形にして紡いで行くことで、持続可能な社会の実現に向けて一歩ずつ近づいているように感じています。これも、みなさまからの信頼の形としてのご寄付をいただけたおかげと感謝しております。

2018年度より、新理事体制となり、さらなる持続可能な未来創りの活動に尽力して行きますので、みなさまからのご寄付、参画をよろしくお願いします。





1 1. 最後に

いつもセブン・ジェネレーションズに心を寄せていただき、ありがとうございます。今期の最も大きな成果はGCIの日本語化です。たくさんの方のご協力を経て、パチャママ・アライアンスが提供しているオンラインプログラムを日本語に翻訳し、ついに日本語化が実現しました。1・4・6・8月の4回実施して、延べ118名の参加者、49名のモデレーターの計167名の方に体験していただくことができました。

また、各所で開催したチェンドリには合計200人が参加し、累計4,145名となりました。ファシリテーター・トレーニングは4回実施し、17名の新しいファシリテーターが誕生しました。

一方、10月にはコスト削減のためバランスト・グロースLLCの銀座のオフィスを離れ、神楽坂のレンタルオフィスへと移転しました。年初にはアマゾンのアチュアル族を訪ねた様子を映像化するプロジェクト「アチュアルの夢」DVD化資金調達に321名から3,148,692円のご寄付をいただき、先住民の智慧をより多くの人に届けるプロジェクトも進行了しました。現在DVD化に向けてブックレット制作を進めております。セブン・ジェネレーションズは、個々人だけの充足を超えて、持続可能で公正な世界をすべての人が実現できると信じ、活動しているコミュニティです。これからも共に手を取り合い、アマゾンの熱帯雨林のような多様性と豊かさにあふれ、すべてが調和している持続可能な世界をつくっていきましょう。

法人概要

1. 名称

特定非営利活動法人セブン・ジェネレーションズ

2. 成立

2011年3月15日

3. 所在地

東京都新宿区

4. 連絡先

メールアドレス info@sevendgenerations.or.jp

5. 会員数（2018年1月時点）

正会員	68名	賛同会員	49名
-----	-----	------	-----

6. 組織

代表理事	宇佐見博志
理事	丸山まゆみ 鳥谷部愛
監事	由佐美加子 大山裕之

（編集責任者：宇佐見博志・鳥谷部愛・桑原康平）